

Q&A

皆さんの「？」に
現役スタッフが
お答えします！



Q そもそも
どんな仕事なの？

A 障がいのある人に対し、日常生活の支援をしたり、相談にのったりする仕事です。スタッフと関係機関がチームを組んで支援をするので、安心して仕事をすることができます。

Q 勤務って
不規則なの？

A 事業形態や職種によって様々な勤務形態がありますが、日々のリズムを作ることに気をつければ問題なく働けます。休日の時間を充実させているスタッフも多くいます。

Q 資格がないと
働けないの？

A 資格がなくても、やる気があれば働くことができます。働きながら様々な資格を取得し、スキルアップを図ることで、仕事の幅を広げることができます。

Q やりがいを感じ
る時は？

A やりがいを感じる瞬間は人によって様々ですが、障がいのある方の「できること」を発見した時、いきいきとした様子や笑顔が見られた時に、特にやりがいや喜びを感じます。

Q どう接したら
いいの？

A 障がいがあるからといって特別なことは何もありません。その方の個性や特性を理解し、少しずつ信頼関係を深めていくことにより、コミュニケーションがとれるようになっていきます。

Q 現実的に
お給料や待遇も
気になるけど…？

A 勤務する法人や取得資格で給与水準が違いますが、障がい福祉サービスの費用は国や自治体が負担していて安定しています。また、国では支援スタッフの給与の改善に向けた取組みを進めています。

Q 職場の
雰囲気って？

A より良い支援をするために、先輩からアドバイスを受けたり、スタッフ同士で話し合う機会も多い仕事です。働きながらチームワークを育む事ができる職場(仕事)です。

Q 私にも
できるかな？

A もちろんできます。大切なのは働くことへの挑戦心。迷ったり、悩んだりすることもありますが、仲間を支えられ成長できます。生涯をかけて打ち込める仕事です。

福祉の仕事を紹介する書籍のご案内

実際に働く支援スタッフの仕事について、1日の仕事のながれや、仕事への思いなど、障がい福祉サービスのことをわかりやすく掲載しています。

ご購入はホームページから ▶ <http://www.aigo.or.jp/>



B5判
88ページ
定価 600円(税別)



探そう! あなたの お仕事



知的障がいのある方を
支援する仕事を始めてみませんか



障がい福祉サービスの仕事に興味のある方は下記の事業所にご連絡ください。

社会福祉法人やまゆり会
岩手県滝沢市巢子148-28
TEL: 019-694-3003
FAX: 019-688-1177

日本知的障害者福祉協会 支援スタッフ委員会とは…

日本知的障害者福祉協会は全国の約6,200の知的障がい関係の事業所が加盟している公益財団法人です。知的障がいのある方々の福祉の増進を図ることを目的に、知的障がい福祉の啓発活動、調査・研究、政策提言や、福祉人材の育成にかかる社会福祉士養成所の運営、通信教育事業などを行っています。支援スタッフ委員会では、日頃、支援スタッフとして福祉サービス事業所において支援に従事している地区代表のスタッフ9名により組織され、障がいのある人に、より良い支援を提供するための活動や障がい福祉への理解・関心の促進など、一人でも多くの方に障がい福祉の仕事に就いていただけるよう取り組んでいます。

作成:公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 支援スタッフ委員会

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会
支援スタッフ委員会

福祉の仕事とは…

「福祉」という言葉の「福」「祉」はどちらも「しあわせ」を意味しています。

「福祉」は英語では「welfare」ですが、この言葉の語源は、

「well=よい」という言葉と「fare=暮らす」が一緒になってできた言葉です。

福祉を充実させることは、誰もが安心して暮らせる社会を作ることにつながります。

様々な理由によって望むような日常生活を送ることが困難になった人に、

その人が望む「よりよい暮らし」を送っていただくための仕事が福祉の仕事です。

福祉の仕事には「高齢者介護」「障害者支援」「生活保護」「児童福祉」などの様々な分野がありますが、

ここでは障がいのある人たちへの福祉サービスと、そこで働いているスタッフの声をお届けします。

保育士、社会福祉士、介護福祉士などの国家資格を取得していない方でも、

障がい福祉サービスの職場で支援員として勤務することができます。

また、福祉の現場で働きながら資格を取得する方も多くいます。



障がい福祉サービスの職場ってどんなところがあるの？

障がい福祉サービスを提供する職場は、サービスの形態によって勤務形態が異なります。

また、職種によっても勤務形態が異なります。



くらしを支えるサービス

- ☑ 障害児入所施設
- ☑ 障害者支援施設(施設入所支援)
- ☑ グループホーム
- ☑ 短期入所

●『障害児入所施設』は、障がいのある子どもの発達に必要な環境を整え、適切な療育を提供しています。

●『障害者支援施設』は、24時間365日、主として重い障がいのある人たちの生活を支援しています。

●『グループホーム』は、主として昼間に通所型の福祉サービスを利用している人や一般企業に就労している人などに、少人数での暮らしの場を提供しています。

●『短期入所』は、地域や在宅で生活する障がいのある人に必要なときに必要な日数の宿泊支援を提供します。

●日勤(早出、遅出勤務を含む)が主体ですが、交代で夜勤や宿直勤務もあります。



訪問型サービス

- ☑ 居宅介護
- ☑ 重度訪問介護
- ☑ 同行援護
- ☑ 行動援護

●必要な時間に利用者の住まいを訪問して支援します。早朝・夜間の勤務がある場合があります。

活動や就労を支えるサービス

- ☑ 障害児通所支援
- ☑ 療養介護
- ☑ 生活介護
- ☑ 自立訓練
- ☑ 就労移行支援
- ☑ 就労継続支援

●日勤が主体の勤務です。

●障がいのある子どもには日常生活に必要な基本的な動作や学校などの社会生活に必要なことを習得するための療育と支援を行います。

●サービスを利用する障がいのある人の意向や障がいの状況によって、医療的なケアや介護を中心としたサービス、創作活動等を中心としたサービス、福祉的就労(生産活動)を中心としたサービス、一般就労に向けて必要な知識・能力の向上を目的とした支援を行うサービスなど、様々な種類があります。



ニーズをつなぐ支援

- ☑ 地域相談支援
- ☑ 計画相談支援
- ☑ 障害児相談支援



●日勤が主体の勤務です。

●生活の中で困っていることを、福祉サービスの利用を希望する人やその家族から聴き取りを行い、ニーズに合った福祉サービスにつなぎます。

障がい福祉サービスの職場で働いているスタッフを紹介!

障害児入所施設で働く Aさんの場合

勤続年数7年



現在の知的障がい福祉の職に就いて7年、主に幼児・学齢児の担当をしています。子どもが好きで、休日には託児所を訪問し、子どもたちと触れ合っています。また、週に一度、サークルで趣味のテニスを楽しんでいます。

1日の仕事のながれ・支援の内容

日勤、夜勤、遅出勤等、勤務帯によって仕事の内容は若干異なりますが、基本的に利用している子どもたちの生活のリズムに合わせた支援を行っています。

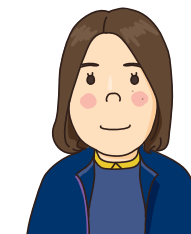
夜勤の日は、夕方17時に出勤し、遅出勤者が退勤する22時以降から翌朝6時30分まで2人体制で勤務しています。子どもたちの就寝後は、夜間3回の各室の巡回が主な業務で、交代で休憩を取りながら見守り、対応を行っています。

日中は幼児期の子どもたちと公園で遊んだり、食事の支援を行い、夕方からは学齢期の児童の学校へのお迎えや、翌日の学校の準備と一緒にします。

学齢期の児童については学校生活の様子にも気を配り、学校の先生と連携をとるため、毎日連絡帳で情報のやりとりをしています。

障害者支援施設で働く Cさんの場合

勤続年数9年



高校卒業後に就職。素晴らしい上司や先輩の支えもあり、9年目を迎えました。仕事終わりには、時には先輩や後輩と食事し、熱く語り合っています。休日はゆっくり寝ることが至福の一時。旅行やカラオケにも行き、仕事にプライベートにと毎日がとても充実しています。

支援上心がけていること

私の施設では、主に利用者の夜間の安全を守り、就寝から起床にかけて日常生活の支援や衛生面等の支援をしています。夜間はそれぞれ居室でゆったりと過ごしたり、好きなテレビを見たりと思い思いに過ごしています。利用者も一番ゆっくりできる時間なので、その時に利用者の想いや悩みに寄り添い、しっかり話を聞く時間となるよう心がけています。

入所施設といえば、「起床時間が決まっていて、身支度を整えて朝食をとる」という以前の「施設」といった固定観念がありますが、「私たちが家に帰った時と同じように暮らす“家”であるように」という施設長の考えにそって、夜間は部屋着で過ごし、起床時からも起きたままの部屋着で朝食をとれるようにすることで、利用者にとって本当の家と同じように過ごしてもらえるよう細かいところにも気を配っています。

就労継続支援 A 型事業所で働く Bさんの場合

勤続年数11年



大学では畜産学科を専攻、馬術部にも所属し、大学卒業後は競走馬の育成牧場で2年程勤めていましたが、縁あって知的障がい者の方の支援に携わって11年になります。プライベートでは、たまに馬に乗ったり、一眼レフカメラを持って色々出かけたりしています。

1日の仕事のながれ・支援の内容

私の事業所では飲食店を運営していますが、朝、開店3時間前から支援スタッフと数名の利用者で、ひたすら仕込み業務に取り組みます。仕込みの時間は、時折、利用者や雑談を交えてコミュニケーションをとることで、普段の生活の様子をうかがったり、悩みや不満を聞いたりする時間にもなっています。

開店30分前になると、利用者の進行により全員で朝礼を行い、2人1組になって「身だしなみチェック」や店訓を全員で読んで「声だし」をしたりします。開店すると、厨房とホールに分かれて、利用者と一緒に厨房の業務や接客業務に取り組んでいます。

昼食は、利用者には営業中に交代で食べてもらい、閉店後は、役割を分担して、後片付けや翌日の仕込みを行います。

スタッフの心に残るエピソード

チャレンジ! ~飛行機一泊旅行~

利用者との一泊旅行が心に残っています。

それまでの旅行は車でいける近隣の旅行ばかりでした。利用者の行動障がい強いからとか、飛行機には乗ったことがないから無理じゃないかと思うより、当たり前色々な経験をしてほしいという願いから、初めて飛行機に乗って旅行に行く企画をたてました。

初めての場所と乗ったことのない乗り物…。参加する利用者には、事前に大きな紙で、何に乗るか、現地に行って何をするかを写真や絵、そして文字を使って伝え、細かいスケジュールはいつでも確認できるようにしおりに作り安心して旅行に参加できるように準備しました。

しおりに通りに飛行機に搭乗し、座席に着いたものの、緊張はその表情からも感じとれました。飛行機が飛び立った瞬間、支援スタッフにつかまる人や声を上げて怖さを表す人もいました。でも、利用者や支援スタッフ合わせて20人で「大丈夫。私たちはできるよ。」と声を掛け合い、乗り越えられたあの瞬間は今でも忘れられません。その後の旅行先では支援スタッフの私たちが当たり前体験することに、利用者が一喜一憂しながらもチャレンジする表情や、自信に満ちた表情、満面の笑みを見ることができて、本当によかったと思いました。

「できないかも。」ではなく、「できるようにどうするか。」そして利用者の心に寄り添うことが一番大事だと学ぶことができたエピソードでした。